

光安慧

天井から

天井からどれだけ身を乗り出そうとも
手は張り詰め切れるまで伸ばされていても
お前の身体が一番重たいところが天井に乗っかっているのなら
下には届かない
かれらへの贈り物をそれでも渡したいというのなら
落とすか
下には衝撃がくるだろう
地盤は揺れ、彼らの細々とした生活用品が宙に舞う
上と下も繋がることのできるのなら、繋がりたいたいとおもうのなら
簡単であった
私が落ちればよい
やっと私の手は彼らに触れることができた
膝がある
着地するのだ、やわらかく

あの右翼の端に立ち、身体の傾きと同時に目をつむる。
お前は落下の美しさを知らない
人びとは落下の美しさを目の当たりにした